



ミスなでしこ岐阜代表の石田さん

日本の魅力を自分の言葉で

3月22日に、可児市出身の石田優香さんがミスなでしこ日本大会への出場を市長に報告しました。この大会は東京オリンピックを控えるこの機会に日本の文化・伝統・観光の魅力を地域から発信しようといわれました。

6歳から始めた茶道をきっかけに和の文化に惹かれ、日本の良さを発信するアナウンサーを志す石田さん。「自分の言葉で可児や岐阜、日本の良さを伝えたい」と自身の思いを語りました。

FC 岐阜 三島選手 凱旋

サッカーFC岐阜の三島選手が3月27日、市役所を訪問しました。三島選手は帝京大学可児中学校・高等学校出身で、プロ2年目の選手です。

市内サッカークラブの子どもたちが応援メッセージを寄せた色紙を手渡すと、三島選手は「応援してくれるみんなのために、ぜひ勝ちたい」と宣言。またサッカーが上手くなるコツや練習方法などについての質問にも答え、子どもたちとの交流を楽しみました。



記念撮影をする三島選手（中央）



市長に喜びを報告する可児さん親子

親子で出場する最後の試合

パワーリフティング全国大会で優勝した可児理恵さん・遥さん親子が市長に喜びを報告しました。母の理恵さんは「6月の世界大会を目指し、記録を更新できるよう頑張りたい」と一言。娘の遥さんも「県外の高校に進学し、ウエイトリフティングに力を入れオリンピックを目指したい」と今後の目標を語りました。

市長は「可児市出身のオリンピック選手が誕生するのを期待している」と、エールを送りました。

カタクリまつりに光秀も登場！

3月30日、31日に第8回カタクリまつりが開催されました。会場では2020年大河ドラマの主演である明智光秀を紹介するフォトブースを設置。フラッシュ撮影をすると文字や絵が浮かび出るといった特殊な工夫に、訪れた子どもたちは大喜び。他にも光秀関連グッズやさより飯、さつまいもコロッケ、五平餅といった郷土食の販売も行われ、訪れた人は思い思いにまつりを楽しんでいました。



カタクリ群生地（土田）



光秀のフォトブース

可児っ子たちが全国の舞台上で躍動

3月14日、市内でスポーツを行う3競技の子どもたちが、全国大会出場への報告に訪れました。チアダンスの川上凛乃さん（中部中2年）は「全国大会で入賞し、家族やコーチ、関係者の皆さんに感謝の気持ちを届けられるような演技をしたい」、ソフトボールの佐橋莉里さん（中部中2年）は「積み重ねたものを最大限に発揮し、良い結果を残せるよう頑張っていきたい」、水泳の鍵谷柚月さん（帝京大学可児中2年）は「昨年の夏の全国大会は予選落ちの悔しい結果となったので、今回は決勝まで進み、全国大会でも戦えるように頑張りたい」と、それぞれ力強く話してくれました。



女子ソフトボール岐阜県選抜に選ばれた3選手



CHEER+ Blue Fires A
CHEER+ Black Fires Aの皆さん



水泳全国大会の標準記録を突破した2選手



地酒と美濃焼を楽しむ来場者

東美濃との出会い

名古屋市の若宮大通公園で3月16日と17日、MEETS HIGASHI-MINOが開催されました。東美濃の歴史ある地酒と美濃焼の魅力を多くの人に知ってもらおうと県内から12の酒蔵が集まりました。また五平餅の販売やマーケットも開催され、可児市からは2店舗が参加しました。

当日は日本酒に合うよう開発された各地のオリジナルのおつまみも登場。来場者はさまざまな角度から東美濃の魅力を発見していました。

ひびきあい賞受賞

人権週間やひびきあい活動を通して、人権問題教育に取り組んだ成果が認められ、岐阜県人権教育協議会から本市9校、1園が「ひびきあい賞」を受賞しました。7年連続で10以上の学校と園が表彰されています。帷子小学校の谷貝校長は「いじめは絶対に許されないこと、人間関係の育成を基本として指導している」と市長に報告しました。違いを認め合うという意識を持った子どもたちがすくすくと育っています。



受賞した学校と園の代表受領者（平成30年度）